

第2期堺文化芸術推進計画の目標の達成度、
効果等に対する検証・評価について

答 申 書

（令和3～令和7年度〈5カ年〉に実施する評価の3年目）

令和6年3月

堺市文化芸術審議会

はじめに

堺市における文化芸術振興の基本理念などを定めた「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」（以下「条例」という。）に基づき策定した「第２期堺文化芸術推進計画」（以下「第２期計画」という。）を踏まえ、令和５年７月３日、同計画の目標の達成度、効果等に対する検証・評価について、諮問を受けた。

第２期計画では、前期計画の結果やその後の社会情勢の変化から生じた課題に対応するため、新たに、「重点的方向性１：文化芸術とともに生きる」、「重点的方向性２：文化芸術で子どもたちを育てる」、「重点的方向性３：多くの人に魅力を伝える」の３つの重点的方向性を設定している。同計画の評価に当たっては、各重点的方向性につき１～３事業を選定し、当該事業の実施主体へのヒアリングや現場の視察等を通して、第２期計画の骨子である重点的方向性について有効な施策が実施できているかの検証・評価を行うものとする。

評価の３年目である令和５年度において、堺市文化芸術審議会では、諮問に基づき、以下のとおり、各重点的方向性の進捗確認に最も効果的と判断される視察事業を選定した。

- 重点的方向性１：文化芸術とともに生きる（地域でのアート活動を学ぶ勉強会、企画担当者のためのワークショップ実践研修（展開編））
- 重点的方向性２：文化芸術で子どもたちを育てる（アートスタートプログラム、さかいミーツアート）
- 重点的方向性３：多くの人に魅力を伝える（アルフォンス・ミュシャ作品企画展示事業、文化芸術振興事業（フェニーチェ堺））

重点的方向性１に係る事業のうち、「地域でのアート活動を学ぶ勉強会」については、専門知識を有する人材が所属する堺アーツカウンシルが主体となって事業を実施した。また、「企画担当者のためのワークショップ実践研修（展開編）」については、堺アーツカウンシルと公益財団法人堺市文化振興財団が、双方の知見を活かし連携して事業を実施した。重点的方向性２に係る事業としては堺市の文化芸術の創造発展を支える事業を実施する推進母体である公益財団法人堺市文化振興財団が、アートマネジメントに関する専門性やネットワークなどを活かし芸術家等との様々な主体と連携しながら、事業を実施した。重点的方向性３に係る事業についても、公益財団法人堺市文化振興財団が、美術及び音楽に関する専門的な知見を活かし、芸術家や音楽団体と連携しつつ事業を実施した。

調査報告について討議を行い、次のとおり結論を得たので、堺市長に答申するものである。

本答申の趣旨に沿って、市は第２期計画の目標達成に向けて、引き続き着実かつ効果的な事業及び施策の推進を図るとともに、必要に応じて、事業の実施主体に対する指導等の措置を講じるよう要望する。

会長	藤野 一夫
会長代理	坂東 亜矢子
委員	雨森 信
	さいとう しのぶ
	田辺 竹雲斎
	永井 泉
	永島 茜
	藤原 麻喜子
	山口 洋典

第2期堺文化芸術推進計画

基本目標

- 自由で心豊かな市民生活の実現
- 都市魅力の創造

基本目標の実現へ

基本的施策										
市民文化					共通			都市文化		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
環境文化の芸術活動を行う	備と文化が文化で芸術に環境の整備	化学芸術教育活動の充実	う将子などの文化芸術の育成	材文化の育成を支援する人	文化施設の活用	多様な分野との連携	及歴史文化資源の継承	の魅力的なまちの景観	交国際的な文化芸術の	経済活動との連携
条例第9条	条例第10条	条例第11条	条例第12条	条例第13条	条例第17条	条例第14条	条例第15条	条例第16条	条例第18条	条例第19条
重点的方向性1 文化芸術とともに生きる					○重点的施策1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決 ○重点的施策1-2：すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実 ○重点的施策1-3：市民の文化芸術活動の機会の提供 <具体的取組> ・すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実 ・「堺アーツカウンシル」の創設による施策の推進 ・地域文化会館の地域における文化芸術拠点としての機能強化 ・コミュニティのつながりによる地域活性化の実現					
重点的方向性2 文化芸術で子どもたちを育てる					○重点的施策2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供 ○重点的施策2-2：子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成 <具体的取組> ・市内学校園での文化芸術鑑賞、ワークショップ等の実施 ・意欲のある子どもが更に興味を深めることができる活動の場の提供 ・子どもと芸術をつなぐ人材の育成 ・行政、芸術家と子育て機関、学校等との有機的な連携					
重点的方向性3 多くの人に魅力を伝える					○重点的施策3-1：堺の文化資源を通じた市民意識の醸成 ○重点的施策3-2：市外、国外の人々への堺の文化資源の魅力発信 <具体的取組> ・歴史文化資源を活用した市民意識醸成、情報発信 ・地域の伝統文化や文化財を活用した都市の活性化 ・未来の歴史文化資源の発掘、育成 ・フェニーチェ堺による都市魅力の発信					

各重点的方向性に係る視察及び評価について

■重点的方向性 1 文化芸術とともに生きる

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
1	文化芸術とともに生きる	文化施設※1利用者数	940,199 人／年	1,500,000 人／年
		地域文化会館における地域マネジメント機能の構築	—	機能構築
		社会包摂型事業の新規実施	—	事業実施

※1 フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）、堺市立文化館、堺市立榎文化会館、堺市立西文化会館、堺市立東文化会館、堺市立美原文化会館、堺市立中文化会館

評価対象	地域でのアート活動を学ぶ勉強会
実施主体	堺アーツカウンシル
事業概要	地域でのアート活動について分かりやすく学ぶことを目的として、市内で文化芸術活動を実施する方向けに勉強会を実施する。
調査概要	◇第2回 地域でのアート活動を学ぶ勉強会 日程：令和5年8月24日（木） 内容：【テーマ】本番までのポイントを整理する 場所：堺市役所 ◇第3回 地域でのアート活動を学ぶ勉強会 日程：令和5年10月4日（水） 内容：【テーマ】＜チームビルド・仲間づくり・活動の閉じかた＞それぞれの道をみつめる 場所：堺市役所
事業の重点的方向性への寄与	- 市民が文化芸術活動を実施する上での相談・対話ができる有意義な機会であり、市民による活動の推進に寄与している。 - 今回の話し合いの中で、「社会的包摂」というテーマが幾度か話題となった。そして、文化芸術活動の「対象」となる人について「視野を広げて」考えてみることや、活動への「参加者ひとりひとり」を考慮し対応する姿勢の大切さについて触れられた。こうした意見交換は、文化芸術活動の従事者が「すべての人が文化芸術を享受できる機会」として活動を充実させていくことに寄与すると考える。 - 講師と参加者のディスカッションから、活動経験豊富な方々でも、常に運営の悩みや課題を抱えていることが分かった。文化芸術のカテゴリーや実施年数に違いはあれ、講師を交えて参加者同士が直接会って意見交換をすることで、互いに新たな気づきを得て、活動を前進させるエネルギーが生み出される場であ

	ると感じた。参加者各自がこの場で得た学びと気づきを持ち帰り、それぞれの地域における活動にフィードバックされることを期待する。 ● 文化芸術において真摯に活動しているグループの実際の悩みを言語化し、解決に導く勉強会である。悩みが解消されれば、揉めた末に解散という事も少なくなり、グループが継続し、長きにわたり文化芸術を発展させることができる。ただ、対象をアートに絞っているため、文化活動も含めるべき。その場合、文化の定義も必要となる。 ● 参加人数は10名程度であったが、既に「文化芸術とともに生き活動している」市民が集まっていたため、彼らを繋げる価値ある事業である。地域に根差して活動するコア市民への働きかけは、すべての市民が文化芸術を享受し活動できる機会の充実に結びつくと考えられる。また、子ども食堂におけるアウトリーチ活動など、社会福祉協議会との連携による事業も話題となり、社会的課題の解決に対応する取組同士の相乗効果も得られている。
--	---

評価対象	企画担当者のためのワークショップ実践研修（展開編）
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団、堺アーツカウンシル
事業概要	堺アーツカウンシルのモデル事業として、公益財団法人堺市文化振興財団事業課と連携し、本市内の文化施設の企画担当者等を対象として実施したワークショップ実践研修。 令和5年度は、前年度の座学を踏まえて市内各施設（小規模多機能ホーム、子ども食堂、病院）でのアウトリーチを実施した。
調査概要	日程：令和5年10月18日（水） 内容：「企画担当者のためのワークショップ実践研修（展開編）」の視察 場所：小規模多機能ホームリードけあ(中区)
事業の重点的方向性への寄与	● 各文化施設（会館）は、市民と直接かかわる機会の多い最前線の現場であるがゆえ、市民の文化行政に対する満足感に直結する。そこに所属する企画担当職員のアートマネジメント力及び意識（＝総合的なスキル）の向上は必須である。今回の視察対象は、昨年の座学・模擬実践を発展させ、現場でのWS実践に該当する。「文化芸術を通じた社会包摂」について、2年にわたって考え方や実践を研修する課程であり、本視察から、企画担当職員の総合的なスキルが着実に向上している様が伝わった。企画担当職員のグループ構成も工夫されており、各施設の意思疎通にも寄与すると考えられる。また、このような実践の場が設けられたことは、文化行政の担当者が関係施設などを訪問し説明してきたことによる成果といえる。企画担当職員は多様な主体と関わるため波及効果が大きく、彼らのスキル向上は、市民が文化芸術とともに生きるための根幹を担う基盤となる事業として非常に評価に値する。 ● 各施設の職員は、堺市の文化行政を直接担う重要な人材であるため、意識やスキルが向上することは、事業の重点的方向性に寄与している。今回は「文化芸術を通じた社会包摂」をテーマとしていたため、具体的には「文化芸術を通じた社会的課題の解決」及び「すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実」

	に深く関与している。 ● 居宅介護施設の利用者の一人が、最初はベッドに寝ていたのに、ワークショップが始まると、「見たい」と起き上がって参加された姿が印象深い。実施後に、「晴々した」「興奮して今日は眠れない」と感想を述べた方々もおられた。文化芸術に触れることによって、様々な方向に心が変化する。「文化芸術とともに生きる」ことの重要性を、このワークショップを通して、施設利用者も施設職員も研修参加者も、改めて実感したように思われた。
--	---

■重点的方向性2 文化芸術で子どもたちを育てる

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
2	文化芸術で 子どもたちを育てる※2	芸術家の学校への派遣割合 (計画期間における派遣校数/全小中学校数)	46.4%	80%
		事業体験後、児童が文化芸術に興味を持てたと答える割合	76.3%	90%
		事業体験後、学校側が子どもたちに良い影響・変化があったと答える児童の割合	89.9%	90%

※2 文化課所管の事業を主に指標に用いています。事業の推進にあたっては、教育委員会の協力を得て実施しています。

評価対象	アートスタートプログラム (未就学児対象アウトリーチ)
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	幼稚園、認定こども園、保育園等で多様なアートプログラムを実施することで、次代を担う子どもたちにアートに出会ってもらい、新たな経験を通じて、豊かな心と感性を育むことができる環境を構築する。
調査概要	◇アートスタートプログラム (音楽) 日程：令和5年9月20日(水) 内容：4歳児、5歳児クラスへのピアノ、バイオリン、クラリネット観賞体験 場所：美原北こども園
事業の重点的方向性への寄与	● 就学前の子どもたちが、通常の保育の場でこのようなプログラムを体験できることは、重点的方向性2「文化芸術で子どもたちを育てる」に寄与しているといえる。なお、包摂的な観点からの寄与をより深めるためには、発達的に課題のある子どもたちも自然体で参加できるようなプログラム内容を取り入れることも必要ではないかと思われる。 ● 認定こども園だけでなく幅広い施設を対象に募集しているため、重点的方向性の寄与が認められるが、応募件数(71件)に対して、実施件数(18件)が限られており、人材などの拡充が求められる。 ● 積極的に市のアーティストバンク登録者を起用しており、堺市ならではの芸術家の育成に寄与している。今回の活動では、演奏能力や幼児に接する基本的な態度(話す速度や姿勢など)は秀でていたが、今後は、演目や内容面における一層の深化が必要と考えられる。

評価対象	さかいミーツアート (小中学生対象アウトリーチ)
実施主体	公益財団法人堺市文化振興財団
事業概要	小・中学校等で多様なアートプログラムを実施することで、次代を担う子どもたちにアートに出会ってもらい、新たな経験を通じて、豊かな心と感性を育むことがで

	きる環境を構築する。
調査概要	◇さかいミーツアート（造形） 日程：令和5年10月20日（金） 内容：小学2年生への造形体験 場所：堺市立錦西小学校
事業の重点的 方向性への寄与	● 文化芸術で子どもたちを育てるという方向性には寄与していると思われるが、やはり、学校やまちの中、普段の生活の中でも触れる機会が継続してあることで堺市のビジョンに近づけていくことができると思う。これは、プログラム単体の問題ではなく、全体の計画、施策に関わってくることである。 ● 言うまでもなく、重点的方向性に寄与する事業であることが確認できた。加えて、本事業は第2期計画の重点的施策「1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決」と「2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供」に基づいて行われていますが、事業の実施形態から、自ずと両者がまかなえている。このように重点的方向性への寄与が確認できる中、申し込み件数に対して実施校が限られているのが残念である。限られた予算・体制の中、善処を期待する。ただ、「申し込み件数に対して実施校が限られている」点の善処として、財団によるコーディネートの手数を減らして実施することには慎重、むしろ反対の立場である。冒頭に述べたとおり、学校側の安心感が大いに削がれる可能性が高いことが理由である。ちなみに今回のアーティスト（スタジオぐるり）は通常、比較的高学年の子どもたちを対象とした場づくりにあたっているとのことで、そうした背景も鑑みながら、アーティストとの協働による学びと成長の機会を創出していたことが印象的であった。

■重点的方向性3 多くの人に魅力を伝える

重点的方向性		評価指標	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
3	多くの人に 魅力を伝える	山口家住宅、清学院、鉄炮鍛冶屋 敷来館者数	9,221 人／年※3	30,000 人／年
		文化芸術事業の認知度が 30%を 超える事業数	1	10
		先人顕彰事業の参加者数 (さかい与謝野晶子青春の短歌大会参加 者数 及び阪田三吉名人杯将棋大会参加者数)	6,603 人／年	10,000 人／年

※3 鉄炮鍛冶屋敷は 2024 年開館のため、山口家住宅、清学院の来館者数

評価対象	堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業
実施主体	指定管理者（公益財団法人堺市文化振興財団）
事業概要	市民に対し、質の高い文化芸術の鑑賞機会及び市民文化活動の場を提供することを目的として、世界有数のコレクションであるアルフォンス・ミュシャコレクションの企画展を開催する。
調査概要	日程：令和5年9月28日（木） 内容：「堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業」の視察 場所：堺 アルフォンス・ミュシャ館
事業の重点的 方向性への寄与	● ミュシャ館が所蔵している、豊富で由来の確かなミュシャの作品を、多様な趣旨の企画展を通して、また、子どもにも楽しめる工夫などを取り入れて公開することは、「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性に寄与していると評価できる。 ● 堺市内の学校に対して出前授業や鑑賞会、子ども向けのワークショップ開催など、受け身にならず積極性を持って取り組まれていると感じる。 ● 特筆すべき点として、指先で触れて鑑賞する「触図」の制作展示を今年度取り入れられたことを挙げたい。ともすれば視覚に困難を抱えている方々にとって美術館を楽しむということに、高いハードルを感じる方が多いということを忘れがちではなかっただろうか。文化芸術を提供する側は、誰もが等しく文化を楽しむ環境を提供していくことが求められていると思う。ミュシャ館のこの取組は、文化芸術を提供する側の本来あるべき姿と言えよう。人に優しい取組が様々な方向性へ、益々広がっていったら欲しい。

評価対象	文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【東京混声合唱団】
実施主体	指定管理者（公益財団法人堺市文化振興財団）
事業概要	市民に対する質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供及び市民文化活動の場の提供を目的として、各文化会館において施設の管理運営及び文化芸術振興事業を行う。
調査概要	日程：令和5年10月8日（日）

	内容：「東京混声合唱団」の視察 場所：フェニーチェ堺
事業の重点的 方向性への寄与	● 非常に良い取組である、継続することによって、地元合唱団の意識の向上、レベルの向上が期待される。取組が継続的に盛んにおこなわれることで、楽しみや目標が増え、若手を含む合唱の人気の増えるのではと考える。 ● 本事業は、重点的施策 3-1「堺の文化資源を通じた市民意識の醸成」とどまらず重点的施策 1-2「すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実」の 2 項に該当する事業であると思われる。3-1 にとっては、今回の事業は画期的であった。今回の評価の方向性から更に進んで、ここから 1-2 へと進展させるためには、「敷居の低い」取組が必要だろう。本公演は、おそらく合唱関係者が大半を占め、一般市民にとっては、さほど関心を惹く企画ではなかっただろう。けれども、ひとたびこのようなコンサートに来場したならば、合唱人でなくとも、多くの方に感銘を与えることができたと確信する。

評価対象	文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【ベルリン・フィル八重奏団】
実施主体	指定管理者（公益財団法人堺市文化振興財団）
事業概要	市民に対する質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供及び市民文化活動の場の提供を目的として、各文化会館において施設の管理運営及び文化芸術振興事業を行う。
調査概要	日程：令和 5 年 11 月 30 日（木） 内容：「ベルリン・フィル八重奏団」の視察 場所：フェニーチェ堺
事業の重点的 方向性への寄与	● 寄与していると評価できる部分もあれば、もっと効果的な内容を考えられるのではないかという印象を持った。中心市街地の活性化や地域のにぎわいの創出の実現につなげるには、やはり平日の夜 19 時スタートの公演だと難しく、曜日の設定は重要ではないか。 ● ベルリン・フィルのトップ奏者による公演を市内のホールで開催することにより、市民が身近で質の高い演奏を聴くことができる。それは、音楽鑑賞の魅力を多くの人に伝えるという方向性に寄与している。 ● 今回の来日ツアーは、関西では本公演のみであることで、堺市のみならず市外、府外からの来場者も多いと考えられる。その点は、多くの人に音楽の魅力を伝えることになると同時に、多くの人に堺の魅力を伝えることにも繋がっていくと考えられる。 ● 「多くの人に魅力を伝える」ためのプレゼンス向上には、堺市やフェニーチェ堺のファンとなる顧客を育成・創造する必要があるのではなかろうか。今回のような公演の場合は、既に熟知している限定的な来場者が中心と考えられるため、「海外の著名な演奏家などの公演」が目的であって、公演の場（堺市やフェニーチェ堺）は副次的な位置づけとなるかもしれない。仮に「海外の著名な演奏家などの公演」であることがアピールポイントならば、例えば他の市民会館などとも連携し、何がどう優れているのか（例：奏者のテクニックやベルリン・フィルについて等）などを具体的に学ぶことができる講座等を実施するなど啓蒙・普及活動を行い、来場者層を拡大させる工夫が必要である。なお、創造・

	発表公演や人材育成事業では、地元である堺にこだわってその魅力を惹き出す独自性のある企画が営まれており、それらにより注力し世界に発信していくこともフェニーチェ堺の国際的プレゼンス向上に繋がるものと考えられる。 ● 質が高く、洋の東西を問わない世界トップレベルの舞台芸術・音楽公演のプログラムを提供し、且つ、市民が主役となって舞台に立つ“Dance Power”や、施設の素晴らしさを見て触れて体験することができる“ホール体験会”など、単に鑑賞公演を提供するだけに留まらない市民に開かれた文化芸術体験の場となっている。 ● 提供される公演のみならず、“フェニーチェ堺”自体が街を活性化させ、人々との交流を生み出すシンボリック的存在になっていると思う。建て替え前の市民会館とは打って変わり、外観や外構を見るだけでも文化芸術の発信拠点が身近にある喜びを持てる造りとなっている。
--	--

おわりに

今年度視察した各事業はそれぞれの重点的方向性に寄与する内容となっていたが、次年度以降に改善すべき課題もいくつか見受けられた。各重点的方向性の評価指標に対する審議会の主な意見は以下のとおりである。

（１） 重点的方向性１：文化芸術とともに生きる

「地域でのアート活動を学ぶ勉強会」は、文化芸術活動を実施する市民がアート活動について学ぶことができるだけでなく、講師陣や、地域で活動する参加者同士が自らの活動を踏まえた意見交換を行うことで、地域での活動の活性化につながる取組である。ただし、参加者が少ない点については、ターゲットやテーマ、開催時間を工夫する等、検討の余地がある。

「企画担当者のためのワークショップ実践研修（展開編）」は、多くの市民と関わる文化会館の企画担当者のスキルを向上させる、言わば市民が文化芸術とともに生きるための基盤を構築する事業である。他方で、各文化会館の職員の任期や異動にも対応できるよう、今後も引き続き毎年度定期的な実施が必要である。

これら市民や文化会館の企画担当者のスキルの底上げにつながる勉強会や研修に加え、堺市文化芸術活動応援補助金の制度の運用や市民の文化芸術活動に対する相談対応等、堺アーツカウンシルを中心に文化芸術を通じた社会的課題の解決につながる取組が行われており、「文化芸術とともに生きる」という方向性に沿った施策が実施されているといえる。また、堺アーツカウンシルの活動とその報告書の内容は非常に充実したものであるが、認知度向上に向けてホームページ等での公開だけではなく、媒体の工夫によって広く全国に発信すべきものである。

（２） 重点的方向性２：文化芸術で子どもたちを育てる

「さかいミーツアート」、「アートスタートプログラム」は、いずれの事業についても全ての応募校・園に対する派遣ができていない点については今後改善が必要である。ただし、事業の質については現在の内容を維持すべきであることから、実施校・園へのヒアリング等の工数の削減ではなく、財団の人材拡充により当該課題に対応する必要がある。

一方で、これらの事業の実施により、各校・各園のニーズに応えるために複数のコースやプログラムを用意する等、子どもたちが実際に文化芸術に触れる貴重な機会が提供されているだけでなく、子どもたちに向けたプログラムを実施するアーティストの育成にもつながっており、「文化芸術で子どもたちを育てる」という重点的方向性に寄与する取組が実施されているといえる。

（３） 重点的方向性３：多くの人に魅力を伝える

「堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業」は、アルフォンス・ミュシャの作品について、子どもから大人まで作品の魅力が伝わる工夫を凝らした展示がされており、本方向性に沿った取組である。ただし、広報については、企画展のテーマに関連した事業と連携した広報を実施する等、今後拡充に向けた検討が必要である。

「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【東京混声合唱団】」は鑑賞者に感銘を与える事業であることに加え、地元堺の合唱団とプロである東京混声合唱団が一緒にステージで共演する非常に意義のある

取組である。また、「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【ベルリン・フィル八重奏団】」は市民のみならず市外や府外からも来場者が期待できる、フェニーチェ堺による都市魅力の発信につながる事業である。ただし、フェニーチェ堺ならではの独自性をより強く出すためには他館との連携によって理解を深める講座を開催する等、集客目標の達成に向けた検討を要する。

これらのことから、「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性に資する取組が行われているといえるが、更なる工夫を期待したい。

上述の通り、各委員による事業視察の結果を踏まえると、各重点的方向性に寄与する取組が行われており、重点的方向性の実現に向けた施策が実施されていると評価することができる。一方で、各視察事業においてはそれぞれに課題も見られたことから、堺市、堺アーツカウンシル、公益財団法人堺市文化振興財団、市民、事業者等が相互に協力しつつ、次年度以降のより妥当性・有効性の認められる事業実施に向けて、また、第2期計画の目標達成に向けて、適切な事業目標、事業手法、事業のプログラム内容等を十分に検討の上、事業の見直しを進められたい。

